

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 関口 智子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 教育</p> <p>① 必修英語クラスにおける e-Learning 教材確認テストの導入</p> <p>本学部では、英語の様々な e-Learning 教材が利用可能となっているが、学生の教室外での継続的な使用率は低かった。2014 年度は、学生の e-Learning による定期的自習を促すために、本学部の必修英語クラス (Oral English, Practical English, Presentation English) で e-Learning 教材の e-L というプログラムから毎回確認テストを実施した。</p> <p>学期中に与えられた全課題をこなせるよう 10 週間のウィークリースケジュールを作り、情報基盤センターの HP にアップした。学生は、毎週各自 HP でその週の課題範囲を確認し、授業前に自習をし、クラスで行われる確認テストにのぞんだ。確認テストは、初見で解く問題ではなく、すべて指定された e-L の課題から出題した。解答に必要な最低時間しか与えられないため、事前の自宅学習が不可欠とされた。</p> <p>合計 45 クラス (15 クラス x 3)、毎週合計 1350 人を対象とするテストとなるため、前期は、問題を OHC で提示し、解答用紙のみ印刷した。後期は、コンピュータ室の Calabo というソフトの小テスト機能を用い、学生が各自のブースで問題を開き、入力した解答を回収した。これにより、紙を一切使わずに確認テストを実施することが可能となった。</p> <p>学期末に実施したアンケート調査では、「確認テストによって、e-L の定期的利用が促進された」、「確認テストのためでなくても (授業以外でも) e-L を使って英語学習を行おうと思う」などの項目で、肯定的な回答が得られた。</p> <p>② 全学統一英語カリキュラムの検討</p> <p>2014 年度の後期から、経済学部の英語教員との合同英語部会で、両学部統一の英カリキュラムの草案を作成した。必修英語科目は、英語力測定テストによるクラス編成、少人数クラス導入、話す力の養成、授業内容を反映した成績評価などを柱とした。選択英語科目の特徴は、内容の多様化と副専攻制度の導入である。「副専攻取得」という目標をもつことにより、学生の学習意欲向上と在学中の継続的学習を促すことが期待される。</p> <p>③ 「グループ研究」履修学生の通訳コンテスト出場に向けた指導</p> <p>2014 年度より開講の「グループ研究 I,II」では、通訳訓練法を取り入れた英語能力向上をめざす少数クラスの授業を行っている。毎年 12 月初旬に「学生通訳コンテスト」を開催している名古屋外国語大学より、コンテストの推薦枠 (1 名) をもらい、前期および後期のクラスを通年で履修していた学生 1 名をコンテストに推薦した。コンテスト出場にあたり、あらかじめ通訳すべき対談のトピックが与えられていたので、事前に内容をリサーチしたり、語彙リストを作成するなど、授業以外で個別指導を行った。結果は、残念ながら入賞はできなかったが、他大学の学生と交流で刺激を受け、英語学習のさらなる動機づけとなった。</p> <p>(2) 研究</p> <p>出版論文：</p> <p>「英語コミュニケーションを实践する意欲を育てる試み」 共著</p> <p>地域政策研究 第 17 巻第 1 号、pp.117~pp.132, 2014 年 8 月 高崎経済大学地域政策学会</p>	

学会発表：

2014年6月29日（日）14:00～ 日本通訳翻訳学会
通訳教育指導法研究プロジェクト研究会 於東京外国語大学
「入門レベルの日英通訳指導法－基礎訓練導入の試み」

英語テキスト：

Connection 1, Starter's Level (Series of Graded Readers) 2014,4月 松柏社
/Cengage Learning

2 その他の事項

10月および3月に、英語非常勤講師の教員連絡会を開催し、英語必修科目の変更点の説明、e-Learning教材のデモンストレーションなどを行った。

3 次年度以降の計画・抱負

両学部の英語教員とともに、将来的な統一カリキュラムに向けて具体案を検討していきたい。今後、シラバスの作成、テキストの選定およびパイロット使用などを行う必要がある。